

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る（李白）

故人 西のかた 黄鶴楼を 辞し

煙花 三月 揚州に 下る

孤帆の 遠影 碧空に 尽き

唯 見る 長江の 天際に 流るるを

故人西辭黃鶴樓 煙花三月下揚州
孤帆遠影碧空盡 唯見長江天際流

解説 黄鶴楼上で、揚子江を下って揚州へ行くとうし
ている孟浩然を送別する詩である。

語釈 ※黄鶴楼Ⅱ今の武漢市の蛇山だざんという丘にあつ
て、長江に面した絶佳の眺望を誇る。※揚州Ⅱ広陵の
別名。※故人Ⅱふるなじみの友人。孟浩然をさす。
※煙花Ⅱ春がすみたちこめ、花の咲き乱れていること
をさす。※長江Ⅱ揚子江のこと。※天際Ⅱ天と地の接
するところ。地平線。

通釈 わが友・孟浩然は、ここ西の地の黄鶴楼をあと
にして、霞かすみたちこめ、花咲き乱れる春三月に、揚州へ
下って行く。楼上から眺めると、たった一つの帆掛け
舟のかすかな影すがたが、青い空と碧の水の水平線に吸い込
まれてゆき、あとにはただ長江の水が空の果てまで流
れているのを見るだけである。